

# 「ふくしまからはじめよう。『食』と『ふるさと』新生運動」 会津地方かわら版

会津地方推進本部(福島県会津農林事務所)

平成27年1月27日(火)発行

## 平成25年度 喜多方市小学校農業科作文コンクール 大賞作品の御紹介(連載最終回)

喜多方市教育委員会では、平成21年度より標記コンクールを実施しています。

### 目次

- 1 平成25年度  
喜多方市小学校農業科作文コンクール  
大賞作品の御紹介(連載最終回)
- 2 頑張る農業者の取組紹介
- 3 会津農林事務所からのお知らせ
- 4 今後の行事(イベント)等



### 目的

- ・「豊かな心」「社会性」「主体性」の育成を目標とする喜多方市小学校農業科の成果を子どもたちの作文を通して検証する。
- ・喜多方市小学校農業科に取り組む子どもたちの感動や発見等を保護者や地域住民など広く一般市民に伝え小学校農業科に対する一層の理解を図る。
- ・広く喜多方市小学校農業科の成果を全国に発信する機会とする。

応募作品は素晴らしい作文ばかりですが、本紙では5点の大賞作品を連載で御紹介しています。最終回となる今回は、2作品を掲載します。

### 【大賞】

#### 命に感謝して

山都小学校 六年 大塚 菜生

「いただきます。」

いつも当たり前のように口にしているこの言葉。そこには、農家の人の苦勞や、作物の命をいただくことへの感謝の気持ちがたくさんつまっているんだと、農業科を通して私は学んだ。

私にとって、今年が小学校最後の農業科学習だった。私達は、サトイモ・ジャガイモ・スイカを育てた。どれも初めてつくる野菜ばかりで、特にスイカは栽培が難しいと知り、「ちゃんと育つかな。大変そうだな。」と心配になった。

そんな私の気持ちを変えたのは、全校集会で栄養士の先生が朗読してくれた、「いのちをいただく」という話だった。

「人は他の生き物の命をいただいて生きていくから、その命に感謝しなくてはならない。」という校長先生の言葉を聞いてまっさきに思い浮かんだのは、「いただきます。」という言葉だった。今までは、食事を食べるという意味で、「いただきます。」とさうだと思っていた。しかし、本当の意味は少し違っていた。「いただきます。」とは、命をいただくという意味であり、その食べ物を作った方への感謝の言葉でもあるのだ。私は時々「いただきます。」と言わないことがある。でもこれからは、自分がいただく命に感謝して言おうと決めた。そして、サトイモ・ジャガイモ・スイカも、「私達に命を分けてくれるんだから、最後までちゃんと育ててあげよう。」と思えるようになっていた。

私は、草むしりなどの手入れが嫌いだっだけれど、収穫のため一生懸命頑張った。そのかいあって、どれもとてもたくさん収穫することができた。特に、立派に育ったスイカを見た時は、とても感動した。だから、スイカを食べる時は、スイカの命に感謝して

「いただきます。」

と言った。農業科を通して私は、命に感謝しなければならぬ、ということ学んだ。

※喜多方市ホームページよりコンクール作品集をご覧いただけます。

<http://www.city.kitakata.fukushima.jp/shimin/gyosei/14902/14980/18176/index.html>

【大賞】

大豆の草むしり

第二小学校 五年 塚 愛純

私の中で、一番いやな時間がやってきました。大豆の草むしりです。

「こんな暑い日にい〜。」

と、ぜんぜんやる気が出ませんでした。

だって、虫もいるし、暑いし、土が手にくっつくし、いやなことばかりでした。草むしりが終わって、あせをかくなか、畑を見てみました。なぜか私のむしったところが、きたなく見えませんでした。みんながんばっていたのに、私は、弱音をはいてばかりで、ほとんどむしれていませんでした。しょんぼりしながら帰ると中また畑に行くと、校長先生が、やさしくこう言ってくれました。「トマトどうぞ。」

がんばっていないのに…と思いながらトマトを食べてみました。これが、大豆の草むしりの思いが、変わった一しゅんでした。トマトを食べると、パツと、いろんな思いがこめられた、おいしいあじがしました。このトマトを、育てるのに、苦労したんだなあと、思いしらされました。

その時から、草むしりの時間がいやな時間ではなくなりまし  
た。食べる人进行うかべたら、すぐくうれしくなって、前の大  
豆の草むしりより何百倍も楽しくなりました。そして、  
「おいしく育つてよう〜」  
と心から思いながら草をぬきました。

大豆は少しずつ大きくなり、みんなでしゅうかくしました。  
太くて大きな豆がたくさんついていました。それを干してから、  
みんなで中の豆をとりました。これから、みんなでどうふを作  
ります。

これからも、わたしは思いをこめて、自分もそしてみんなも、  
えがおになるようなやさしいを作っていきたいと思いました。そし  
て、やさしいのおいしさや、こめられたいろいろな思いも、みんな  
に知ってもらいたいです。



頑張る農業者の取組紹介

耕作放棄地の解消による地域農業の活性化

喜多方市 江川正道さん

喜多方市の農業生産法人株式会社エガワコントラクター代表取締役社長の江川正道さんの取組を紹介します。

江川さんは農作業受託や耕作放棄地を整備した農地を利用し、アスパラガスなどの野菜、サフランなどの薬用作物、ナツハゼなどの果樹を栽培しています。耕作放棄地のほ場整備とともに、これを活用して野菜等6.5ha、薬用作物1ha、果樹80aを栽培し、地元のJAや市場へ出荷しています。

また、ナツハゼを原料にした「喜多方なつはぜサイダー」を商品化するなど地域産業6次化に取り組み、道の駅等で販売し好評を得ています。今後はガマズミについても商品化を検討中で、経営安定のための商品開発や研究に余念がありません。



江川正道さん  
手に持っているのは  
「喜多方なつはぜサイダー」



今後は益々増え続ける耕作放棄地を整備し、地域の担い手が活用できるようなしくみを考えたいと地域農業の将来を見据えた計画を語っていただきました。

また、生産者の取組をより一層消費者に理解してもらうため、消費者と生産者をつなぐ情報発信について地域の若い担い手とともに計画しているとのことです。



## 会津農林事務所からのお知らせ



ふくしまの  
食育キャラクター

### ～ ふくしま食育実践サポーター制度について ～

「ふくしま食育実践サポーター」(以下「サポーター」という。)とは、食生活・栄養、調理、生産・加工、食文化、食品製造・流通、食の安全・安心など、「食」に関する分野において、自らの知識や経験を活かした講義や実習等の実施、体験機会の提供等をとおして、地域住民、特に子どもと保護者の「食」に関する学習意欲を喚起し、食育活動を支援する方々のことをいいます。

県では、このような方々の登録を進めるとともに、学校や地域団体の要請に応じて、サポーターを派遣しています。サポーターの派遣を希望する方、また、サポーターとして地域の食育活動を支援したい方は、最寄りの農林事務所までお問い合わせください。

※ホームページ

<http://www.pref.fukushima.lg.jp/sec/36021d/supporter.html>

【企画部 地域農林企画課】

### ～ 「第12回オーライ！ニッポン大賞」について ～

都市と農山漁村の交流に取り組む団体や個人を表彰する「第12回オーライ！ニッポン大賞」で、全国2位に相当する大賞にNPO法人喜多方市グリーン・ツーリズムサポートセンターが選ばれました。福島県内では初の受賞です。

NPO法人喜多方市グリーン・ツーリズムサポートセンターのコメント

「これもひとえに会員の皆様が、農泊や農業体験を通して長年活動してきたことが評価された結果です。これをきっかけにさらに観光復興が進めばと思います。会員の皆様おめでとうございます。そして、ありがとうございます！！」

【企画部 地域農林企画課】



表彰式の様子

### ～ 宮袋いちご研究会の新鮮・完熟いちごはいかがですか ～

宮袋いちご研究会は、会津若松市北会津町宮袋地区に居住する農業者10名で構成されています。

昭和37年に会津で初めてイチゴ栽培に取り組み、今年で52年目を迎えました。

普段は地元の直売所や市場などに販売していますが、平成26年度は県産農産物の風評払拭のために日本橋ふくしま館「MIDETTE」や地元のお祭り「十日市」へ出店するなど、PR活動を積極的におこないました。

この活動を契機に独自のマスコットキャラクター「いちご法師」も誕生し、ブランド化にも取り組んでいます。

会津の冬は日照量が少なく、気温も低いので、一粒収穫するために他産地よりも時間がかかりますが、味が濃く、とても美味しいです。是非、会津のいちごをご賞味ください。

【農業振興普及部 経営支援課】



十日市における  
出店の様子

～ CLT建築構造見学会が開催されました ～



平成26年12月24日に、県CLT推進協議会が東日本で初めて建設しているCLT建築集合住宅の構造見学会が湯川村で開催されました。

CLT(クロス・ラミネーテッド・ティンバー＝直交集成板)は、木造建築の新たな可能性を開く木材として国内外で注目されています。

高い断熱・遮音・耐火性を持つなどの利点があり、そして何よりも地域産材の新たな活用方法として注目されています。

見学会には木材、林業関係者のほか、建築や報道関係者など約250名が参加しました。

今年2月に完成予定で、若者定住促進のために利用される予定です。

現在、CLT工法は実証、テストの段階ですが、近い将来に実用化が見込まれており、CLT工法の普及によって会津地域の林業や中山間地域の活性化につながることを期待しています。

【森林林業部 林業課】

←見学会のようす



今後の行事(イベント)等

2月24日(火) 平成26年度 第3回 あいづ“まるごと”ネット交流会

場所：道の駅 あいづ 湯川・会津坂下  
(河沼郡湯川村大字佐野目字五丁ノ目78-1)

時間：13:30～

内容

第1部 講演:テーマ「人に伝えて、売れる商品デザイン」  
講師:公立大学法人会津大学短期大学部  
産業情報学科デザイン情報コース 准教授 高橋 延昌 氏

第2部 6次化商品の求評会

※ホームページ

<http://www.pref.fukushima.lg.jp/sec/36240a/26marugoto3.html>

2015年2月						
日	月	火	水	木	金	土
1	2	3	4	5	6	7
8	9	10	11	12	13	14
15	16	17	18	19	20	21
22	23	24	25	26	27	28



【会津・南会津農林事務所 企画部】

【ご意見・お問い合わせ】

会津地方推進本部事務局  
(福島県会津農林事務所企画部地域農林企画課内)  
〒965-8501  
福島県会津若松市追手町7番5号(会津若松合同庁舎2階)  
TEL (0242)29-5369 FAX (0242)29-5389  
E-mail: kikaku.af04@pref.fukushima.lg.jp

